



3



1



6



5



4

- 1 踊り手のまなざしに笑みがこぼれる子どもたち—細越しし踊り
- 2 天狗と権現様がそろいぶみ—六角牛神楽
- 3 みなぎる若い力にみこしも踊る—下同心祭典委員会
- 4 身に付ける瓢箪などもすべて手作り
- 5 懸命に笛を吹く子、それを見詰める温かいまなざし—綾織しし踊り
- 6 母と子の姿もまつりに花を添える
- 7 お化粧直し。裏方の支えがまつりをつくる—穀町南部ばやし
- 8 見よう見まねで踊る子ども。彼らがこれから担っていく—青笹しし踊り
- 9 そろいの衣装でかれんに舞う南部ばやし—仲町南部ばやし



7



9



8



2

これまで、これからも、 ずっといつまでも

日本のふるさと遠野まつり

日本のふるさと遠野まつりは九月十四・十五の両日、市内目抜き通りや遠野八幡宮で行われ、三万五千人の観衆を魅了しました。

神楽やしし踊り、南部ばやしなど五十八団体、約四千人が、各地域に受け継がれる郷土芸能を披露。このまつりのためにそれぞれの地域では、およそ一カ月間にわたる練習が行われました。

神々が宿ると伝えられる遠野郷。五穀豊穡や地域の幸せを神々に感謝し、舞がささげられます。太鼓を鳴らし、笛を奏で、勇壮に舞う儀式は、何百年も昔から伝えられ、人々の生活の中に、今も脈々と受け継がれています。

子どもたちは、大人たちをまね、大人たちは、師匠を指す。汗をぬぐい、声を上げ、力の限り、どっふりとまつりに漬かる。観客は沿道に集い、ふるさとを懐かしむ。

伝える人、受け継ぐ人。それぞれに去来するそれぞれの「愛郷心」が遠野のまつりや遠野全体を支えています。

これまでも、これからも、そしてずっといつまでも。